

鶴岡市立藤沢周平記念館

—藤沢文学を味わう拠点施設—

齋藤冬華

藤沢周平と作品

藤沢周平は日本を代表する時代小説作家である。本名は小菅留治。昭和2年（1927）、山形県東田川郡黄金村大字高坂（現山形県鶴岡市高坂）に農家の次男として生まれ、青年期までを鶴岡で過ごした。教師になり鶴岡の湯田川中学校に赴任するが、2年後に肺結核のため休職。6年余りの闘病生活ののち、東京の業界新聞社に勤め、会社勤めの傍ら小説を執筆するようになる。昭和46年（1971）に「溟い海」でオール讀物新人賞を受賞し作家デビュー。昭和48年（1973）に「暗殺の年輪」で直木賞を受賞し翌49年（1974）からは執筆活動に専念した。

江戸市井の人々や微禄の藩士を主人公とした時代小説を中心に、史実や実在の人物を描いた歴史・伝記小説、故郷鶴岡について書いたエッセイなど、多くの作品を書いた。

代表作としては『蟬しぐれ』『三屋清左衛門残日録』『用心棒日月抄』シリーズ『橋ものがたり』などが知られている。

なかでも江戸時代の庄内地方がモデルといわれる「海坂藩」や架空の藩を舞台とした作品は「海坂藩もの」と呼ばれる。そこに描かれる情景や文化、食などは庄内を彷彿させ、多くの読者を魅了している。

設立の経緯と施設概要

平成14年（2002）の映画「たそがれ清兵衛」など、小説が次々と映画化、ドラマ化されたことをきっかけに、「海坂藩もの」をはじめとする藤沢作品の原風景を求めて鶴岡を訪れる人が増加。藤沢作品をより深く豊かに味わうための施設が求められるようになった。鶴岡市では藤沢周平氏の遺族をはじめ、小説の出版に携わった方や藤沢氏にゆかりの深い方々の協力を得て基本構想、基本計画をまとめた。藤沢氏を育んだ自然や作品に重なる情景、文化に触れることのできる庄内一円を藤沢文学ミュージアムと捉え、藤沢文学が概観でき、作品世界に案内する

拠点施設として平成22年（2010）4月に記念館を開館した。開館以来、全国から多くの藤沢作品ファンが訪れている。



鶴岡市立藤沢周平記念館 外観

記念館は、庄内藩主酒井家の居城、鶴ヶ岡城があった鶴岡公園内に建てられ、派手なことや目立つことを嫌い、「普通が一番」をモットーとしていた藤沢周平氏の人柄に沿うように公園の緑の中に静かにたたずんでいる。

建物は2階建てで、1階に展示室、展示準備室、読書サロン、会議室、事務室、2階に収蔵庫、研究室を配している。

展示概要

記念館では、作品に込めた思いは作家のみが知るもの、また、作品をありのままに読み感じてもらうことを大切にしたいと考え、「評価・評論はしない」ことを展示の基本方針としている。

常設展は3部構成となっており、第2部と第3部の間に企画展コーナーがある。

第1部「藤沢文学と鶴岡・庄内」では、作品に登場する鶴岡・庄内の食や文化、「海坂藩」を彷彿させる庄内の風景を、写真と小説の一節とともに紹介している。

第2部「藤沢文学のすべて」では、作品世界を「武家もの・歴史小説」「市井もの」「伝記小説」とジャンルごとに分けて紹介する。自筆原稿や創作メモなど貴重な資料を展示するとともに、作品に対する藤沢周平氏の思いなどを解説している。

第2部導入の初版単行本74冊を発行年順に一堂に展示した「藤沢周平全作品」コーナーや、

東京都練馬区大泉学園町にあった自宅2階の6畳間の書斎を移築・再現した展示は、見どころの一つとなっている。

書斎は展示室の都合上4畳半までの再現としているが、壁以外は当時の部材を用い、実際に使用していた机や椅子、愛用品などを配している。一般家庭の6畳間に机や、執筆の資料としていた本などが並ぶ本棚が置かれた質素な書斎からは、藤沢氏の素朴な人柄が感じられる。



書斎の移築・再現展示

第3部「作家・藤沢周平の軌跡」では鶴岡における、人生の師ともいえる人々や教師時代の教え子との交流、趣味や日課といった日常、なによりも大切に思っていた家族のことなど藤沢氏自身のことを紹介している。

展示室のほか、著作文庫本や全集、藤沢氏に関する解説書、郷土史の本などを読むことのできる読書サロンがある。備付けのパソコンでは、藤沢氏がインタビュー番組に出演した際の映像を見ることができる。

酒井家庄内入部400年記念企画展

常設展のほか、年2回を目安に企画展を開催している。

令和4年(2022)は庄内藩を治めていた藩主酒井家が元和8年(1622)に庄内に入部して400年という記念の年に当たることから、鶴岡市では様々な取り組みがされた。鶴岡市の施設である藤沢周平記念館においても酒井家庄内入部400年を記念する企画展を前期、後期に分けて開催した。

前期には庄内藩の史実を題材とした作品を取り上げ、作品の背景である庄内藩や、酒井家の歴史とともに紹介する展示を行った。

現在開催中の後期展示では、「海坂藩もの」と呼ばれる作品を取り上げ、モデルといわれる江戸時代の庄内の歴史や出来事が、作品にどのように描きこまれているかを、藤沢周平氏が愛

用していた旧蔵書『鶴岡市史』などととも紹介している。



企画展「海坂藩もの」にみる庄内藩

イベントおよび高校生との取り組み

企画展以外にも、著名人を招いての朗読会や講演会のほか、館内でのミニイベントを開催している。なかでも昨年度から開催している藤沢周平原作ドラマの上映会は、リピーターを増やすとともに、ドラマの鑑賞をきっかけに作品を読んだとの声もあり、新たな読者の獲得につながっている。

平成27年(2015)からは高校書道部と連携し「藤沢周平作品題名書道展」を開催している。藤沢周平氏の故郷の若い世代に藤沢作品に触れてもらうとともに、来館者にも高校生の感想や、書道という新たな視点から作品を知ってもらう機会となっている。

藤沢周平氏が平成9年(1997)に亡くなってから25年以上が経ち、藤沢文学の作品世界および貴重な文学資料の継承のためには新たな読者の獲得が不可欠となっている。企画展やイベント等を通し、藤沢作品の魅力の発信に、より一層努めていきたい。

コロナ禍による行動規制も緩和されてきた折、ぜひ当地を訪れて、藤沢文学と作品世界に重なる鶴岡の自然や文化、歴史そして食を体感していただければ幸いである。

鶴岡市立藤沢周平記念館

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町4-6

Tel : 0235-29-1880

入館時間 9:00~16:30 (最終受付時間)

休館日 : 水曜日 入館料 : 320円

HP : https://www.city.tsuruoka.lg.jp/fujisawa_shuheij_memorial_museum/

藤沢周平記念館学芸員